

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	e toco		
○保護者評価実施期間	令和 8年 1月 5日		～ 令和 8年 2月 15日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	25	(回答者数) 18
○従業者評価実施期間	令和 8年 1月 5日		～ 令和 8年 1月 31日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	5	(回答者数) 5
○事業者向け自己評価表作成日	令和 8年 2月 20日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	子ども一人ひとりの気持ちや特性を尊重した関わりを通して、安心して過ごせる環境づくりに努めており、事業所が子どもたちの「居場所」となりつつある。	子ども同士の関わりを無理に促すのではなく、それぞれの安心できる距離感を尊重して支援している。 子ども一人ひとりの特性や気持ちに配慮し、安心して過ごせる環境づくりを行っている。 活動だけでなく、何もしない時間や個々のペースを尊重する時間を確保している。	安心して過ごせる「居場所」としての役割を意識しつつ、小さな成功体験や自己肯定感につながる活動を取り入れている。 学校や家庭と連携し、子どもの安心感や変化について共有しながら継続的な支援に繋げていく。
2	利用児童の提案を尊重し、1人では実現が難しい内容についても、職員全体で方法を検討し、環境を整えることで主体性を活かした支援を行っている。	利用児童から「やってみたい」「挑戦してみたい」という提案を丁寧に受け止め、実現に向けた可能性を職員間で検討している。 子ども1人では難しい内容についても、安全面や環境面を整理し実現可能な形に工夫している。 子どもの意見や思いを尊重し、否定せずまず受け止める姿勢を職員全体で共有している。	子どもの提案を記録し、支援計画や活動内容の見直しに継続的に活かす仕組みづくりを行う。 年齢や発達段階に応じて、意見表明や選択の機会をより増やしていく工夫を行う。 職員間での事例共有を通して、子どもの主体性を引き出す支援方法の質の向上を図る。
3	令和7年10月より、保護者様参加型のイベントを企画・実施し、職員と保護者様が直接交流できる場を設けている。 ※イベントを通して、日常の支援の様子や子どもの成長を共有する機会となり、保護者様との信頼関係の構築に繋がっている。	保護者様が参加しやすいように事前に内容・目的・流れを分かりやすく案内し、安心して参加できる環境づくりを行っている。 保護者様が気軽に話し易い雰囲気づくりを心掛け、一方的な説明にならない双方向のコミュニケーションを大切にしている。	保護者様同士の交流の機会も意識し、子育ての不安や悩みを共有できる場づくりに繋げていく。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	地域の学童クラブや他の児童施設、地域の児童との交流の機会が少なく、地域とのつながりが十分に持てていない現状がある。	日常支援や個別対応を優先する中で、外部との交流機会を計画的に設けることが難しかった。 子ども一人ひとりの特性に配慮する必要があるため、交流の方法や場面設定に慎重さが求められている。	地域交流についても子どもの安心感を最優先に進める必要性を認識していく。 地域の学童クラブや児童施設との情報交換を行い、見学や小規模な交流など段階的な取り組みから検討していく。
2			
3			